

会 議 録

会議名	平成 30 年度 第 1 回 菊川市総合計画審議会
日 時	平成 30 年 7 月 3 日 (火) 13 : 00～
場 所	菊川市役所 2 階 201、202 会議室
出席者	総合計画審議会委員 13 名、市長、副市長、企画財政部長、企画政策課長、政策係
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 会長あいさつ 4 新委員あいさつ 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第 2 次菊川市総合計画 平成 29 年度進捗状況報告について (2) 菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 29 年度進捗状況報告について 6 その他 7 閉会
議事要旨	<p>1 開 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会宣言 ・出席者数確認(15 名中 13 名 会議成立) ・資料確認 <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 新委員あいさつ</p> <p>※市長退席</p> <p>5 議事</p> <p>事務局 : それでは、これより議事に入ります。議事の進行につきましては、菊川市総合計画条例第 17 条によりまして、会長に議長をお願いいたします。</p> <p>会 長 : それでは、菊川市総合計画条例第17条により議長を務めさせていただきます。 本日の議題は 2 件ありまして、昨年度より多いため、2 時間を予定しておりますが、みなさまから積極的な発言をいただきながら進めていきたいと思っております。それではさっそく「第 2 次菊川市総合計画 平成29年度進捗状況報告」について事務局からの説明をお願いします。 また、議事の質疑については、それぞれの議事の説明後に質疑を受けますのでよろしくをお願いいたします。</p>

《事務局説明（資料1・資料1別添）》

会 長 : 事務局より議事1の説明がありました。

分野ごと、みなさまに話を聞く前に、事務局から説明がありましたように、13ページの達成率が、これだけを見ると、最初の指標については、80%以上100%未満に位置し、これだけを見ると非常によく見えるわけですが、14ページを見ると、これはアンケート調査なので上がり下がりはあるわけですが、現状値より落ちてしまっている。しかし、目標値で割ると、90%以上達成しているため、問題提起させていただいたわけですが、それ以外にも、目標値が下がった方が良いというものもあるわけですが、そのあたりが、一律目標値で割ったものが達成率ですというのはおかしいのではないかと思ったわけです。このあたり、みなさまからも意見をお聞きしたいと思ったわけがあります。いかがでしょうか。

委 員 : 達成状況については、ビジュアル化するのがすごくわかりやすく、5つの基本目標の下にいくつも指標があるため、色を付けて帯グラフで一覧表へ出すと、どこが低くなるか、細かい数値を並べるよりもわかってきます。基本目標3の産業が芳しくないのは、数値を見ればわかりますが、ビジュアル化した方が、感覚的にわかるのが大事なのが一点。また、低くする目標であれば、引き算をしてゼロを目指す計算式を定義しておけばいいと思います。

会 長 : いくつか論点がありまして、この目標を年度ごとに分けるというやり方があります。最終目標だけを目指すのではなく、年度ごとに区切って目標とするのもありますし、差分を達成状況とするやり方もあります。このあたりの意見としてありましたらお願いいたします。

委 員 : 私もこの指標を見させていただいた時に違和感がありました。端的に県のやり方ですと、単年度ごとに目標を案分していくのか、単年度ごとの数値を組むなどして、平成29年度だと現状値がこれで、目標値がこうであるため、実績がこのようだと示すものが多いと思います。先ほど委員からの意見でもありましたとおり、目標値ゼロですと、毎年「その他」の評価になってしまいますので、このあたりはどうかと思います。それと、今の表現方法では、現状値があって目標値があり、その間が実績値で埋めていく形ですが、空欄がたくさんできてしまいます。評価は過去の実績からの積み上げで行っていくことを考えれば、空欄を置くというよりは、過去のデータを表示し、そのデータに対してどうであったのか、そういう評価をしていった方がよいかと思います。新たに指標を設定した場合に、過去データを掴めないといった場合は、その他の指標から文章で書きこんでいく。そういった手法があるかと思います。

会 長 : ありがとうございます。事務局から何かありますでしょうか。

事務局 : 事務局としても、会長から問題提起があつてから、評価手法について、いくつか調べました。県のほうでは、上と下の数値を分けておりました、「目標値以上」「基準値以下」菊川でいう「現状値以下」を分けております。その他についても同じように区分しております。それから、目標値未満と基準値以上の間を「A」「B」「C」の3段階に分けておりました、この区分については、最終的な目標を年度ごとに案分した、毎年の目標を「期待値」としては、その期待値に対して何パーセントの範囲内と位置するものを3区分しております。そのあたりを参考にさせていただきたいと考えております。

会 長 : 他にご意見ありますでしょうか。

委 員 : 目標値の設定については、私たちが関与して作成を進めてきたわけですが、総合計画ですので、目標値をすぐに変えるわけにはいかないと思います。しかし、私自身個人的に思う目標で交通事故発生件数など、気になるところはありますが、見直すときは、全体を含めてしていかないといけないかと思ひます。

会 長 : ありがとうございます。目標値自体の適否もあるというご意見でしたが、総合計画の指標の取り扱いについて、事務局どうでしょう。

事務局 : 総合計画の指標の見直しについてですが、先ほど説明させていただきました、政策指標につきましては、毎年見直しするわけにはいきませんので、前期後期の4年目で見直しなど、節目となる年の見直しを考えております。その下の施策指標については、毎年実行計画を作成しているわけですが、その中の記載事項となりますので、こちらは変更が必要なものは変更が可能ですので、変えるべきものは変えて行こうと思ひます。

会 長 : それでは、この達成率の示し方は、少しお時間をいただきまして、事務局の方で、良い表現方法を検討していただき、また提案していただくこととさせていただきます。図解するなど表現方法もあるかと思ひますのでその辺りも含めて検討をお願いします。

委 員 : 面白いツールがありまして、「タブロー」というのですが、簡単に使うには30日くらいは無償化だったかと思ひます。データを打ち込むと、大変美しく図が自動的に出てきますので、こういう指標を使ったほうが、よいかと思ひます。詳細に分析をしたところで数値であると見づらくなってしまうかと思ひます。

会 長 : ありがとうございます。とても大事なところだと思ひますので、事務局に頑張ってくださいたいと思ひます。それでは、分野ごとご意見いただきたいと思ひますが、指標にとらわれずに感覚的にご意見いただければと思ひます。

委員 : 最初に全体的なことで人口推計であります。今回新たな社人研の推移が出まして、それが、独自推計とほぼ一致していて、やや上回っている状態ということでしたが、推計値の元が変わると、ガラッと変わってしまいます。それでも、独自推計を打ち出すかどうかを検討するとありましたが、そのあたりのお考えを聞きたいと思います。それから福祉の分野で、30ページの障がいの指標ですが、「障がいのある人が安心して暮らしていけるまちだと思える市民の割合」は低下していますが、この辺りは地域側の感覚としても大変でありますため、何かしらの対策を講じなければいけないと思います。何か対策、理由等ありましたらお願いします。

事務局 : 独自推計を更に踏み込んで見直していくかとのことですが、この後の総合戦略でも人口の話は出てくるわけですが、総合戦略については、平成31年度で今の総合戦略の期間が終了します。その後、国の方からも、自治体の次期戦略の必要性が求められております。戦略の中で人口ビジョンが示されておまして、次期戦略を策定する場合はこの人口ビジョンを考えていくことになります。総合戦略の人口ビジョンを総合計画にも使っておりますので、この見直しの時期に合わせて変更していくことになると思います。

事務局 : 「障がいがある人が安心して暮らしていけるまち」とのことですが、課題としては認識しております。ソフト面、ハード面と考えていかないといけないと考えております。ソフト面に関しましては、障害者差別解消法も制定されておりますので、その趣旨を市で徹底していくこと、それから市では、昨年度、菊川市手話言語に関する条例の制定をいたしました。こうした制度的なものを通して、相談事業の充実に向けて取り組んでおりますので、そのあたりに力を入れていかないといけないと思っております。また、ハード面では、十分に利用してもらえるよう、紹介なりしていかないといけないと思っております。

会長 : ありがとうございます。時間の関係がありますため、地方創生の議事をご説明していただき、議事1、議事2の議題を合わせてご意見をいただければと思います。よろしいでしょうか。それでは事務局からの説明をお願いします。

《事務局説明（資料2・資料2別添・資料3）》

会長 : ありがとうございました。それでは、総合計画・総合戦略合わせてご意見をいただきたいと思っております。

委員 : 資料1の38ページ39ページがスポーツの関係です。「スポーツが盛んなまちづくり」の政策が掲げられております。大変すばらしい目標ですが、なかなかみなさん日常生活の中で、大切だということはわかっておりますが、実施するまでいかないということがわかっております。特に市の場合は中高齢者の女性が一生懸命取り組んでいます。こ

れを広げていったらよいと思います。また、市全体としては、ハード面が不足しておりますので、このあたりも早急に作っていただいて、これを利用して盛り上げていけたらいいのではないかと思います。

委員 : まず、総合計画の方ですが、来年度に向けての意見ととらえていただければよいですが、全体的に基本目標ごとに記載されているなかで、評価の点で、指標の件は先ほどありましたが、政策の総括のところが、いわゆる行政評価の部分かと思います。中を見ると、基本に評価というものが、実績に対してどうだったか、やってきたことが役に立ったのか、そうでなかったのかが必要になってきます。例えば14ページを見ると、評価というよりも、これからこうしていくが先に来てしまっている感じがします。PDCAのCをきちっとしないと、改善点が出てこないと思います。その点では、32ページの病院の関係は、結果とそれに対して、こうしていきたいということが明記しているため、このように、評価とどう改善していくのかを書くために、示すということも必要かと思います。それから総合戦略の方では、先ほどの達成状況にも話がありましたが、最終的に◎、○、△で全体を表示していくとなると、例えば10ページで「将来菊川市に住みたいと思う高校生の割合」は平成26年度は20%であったものを平成31年度には50%にしたということになると、単純に計画期間の5で割ると、毎年6ポイントほど上げて行くという評価になるかと思います。そうすると、平成29年度の目標は38%で、達成状況は100%になるのではないかと思います。そうすると、△でいいのかという話になりますので、その辺の基準をしっかりとっていくべきだと思います。細かいところでいうと、11ページにあります基準値の「制度無し」もデータはデータとして捉えていくべきで、基準値はゼロ、その状況はどのようなことであるかを下の評価の文言で書き込んでいくことになってくるのだと思います。その辺りは来年に向けてやっていくことかなと思いました。

会長 : ありがとうございます。私もこの10ページの指標については、すごく驚異的で、この事業をすごく推奨してしまして、他の自治体にも紹介しているわけですけど、決して△の評価の事業ではないはずです。大石委員は県の行政評価をやっておりまして、そのような相談には乗ってくれるのだと思います。

委員 : 第2次総合計画の2年目に入りましたが、まず良かったのが、人口減少が抑制されたのがまず第1に大きいことだと思います。確実に減って行く中で、この状態を保っていくということは、驚異的な数字だと思っております。この数値を保っていければ、各施策を行ううえでは有効なのではないかと思います。それから社会福祉協議会に所属しておりますので、その観点から一通り見させていただいた中で、27ページに要介護認定者の割合がありますが、これは低い方が元気な高齢者が多い方が良く私は捉えているのですが、平成29年度が13.6%と出ていますが、これは県内でも市町の中ではかなり高いと思うわけですが、目標値は17.2%としておりますが、これは、高齢者が増えて行くというのは一目瞭然ですので、現状値より3ポイント上がる目標かと思

いますが、実績値は13.6%と保険を使わずにさらに元気な高齢者が増えたという認識でそうすると、達成状況は100%ではないかと思いますが、その辺どうでしょう。

事務局 : 高齢化が進むことを想定しまして、目標値は現状値よりも上げて設定しております。今回、実績値は現状値よりも下がっております。そのため良い傾向になっております。今回の達成状況の出し方については、一律に計算をしていますので、79.1%という数値であります。今ご意見いただいたように100%を超えているのが現状でして、良い結果となったとのご理解でよろしいかと思っております。この施策指標については、見直しができる指標ですので、いただいたご意見を反映していきたいと考えております。

委員 : まず始めに、農学芸スクール事業の関係ですが、ご協力をいただいたおかげで、明後日、登記をしますが、JTBとアクトインディーとの3社で法人化することが決まりましたので、ご報告させていただきます。これから菊川を本社に全国へと、社名もグローバルデザインスクールという名にしたのは海外まで視野に入れて、準備していますので、特に東南アジアのこれから豊かになっていく過程の地域については、使えるのではないかと、JICAに行っていた人たちの意見もいただいています。菊川を世界に打って出たいなと思っております。総合戦略の方でいいますと、市の計画も会社と同様と考えて、売上とコストとブランドの3つの観点でみると、まず、住民の方に気持ちを向けてもらうことが目標かと思っております。税金を払いたくなくならないのかと考えています。そんな目で見ると、産業が弱いというのは片手落ちかなと思っております。私たちは小さな会社ですが、物件が無いということと、仲間も浜松市がすごくベンチャー支援をしています。浜松市にベンチャーが移りつつある気配があります。これは、静岡市は全然ダメで浜松市に一極集中しつつあるのが現状です。我々は農業ですので、浜松に行くことはないのですが、一つの市で無理であれば、ここを真ん中の地域でサポートするようなことをしないと、今後50年100年稼いでくれる事業者が住みついてくれないことになってしまうのかなと思っております。あと、アンケート調査は満足度が低いのは、どの年齢層の回答が多いのかが気になります。感覚でいうと10代は文句言いそうにないので、30代40代の満足度が低いのかなと、それから文化的なものが少ないのかなと、そのあたりの要因分析をされると次に繋がるような気がします。

会長 : 産業分野においては、今後激変が予想されます。周辺の自治体にはかなりがんばっているところもありますので、ぜひそのあたりもがんばっていただきたいと思っております。

委員 : 私は菊川市の人口を増やす2票を持っておりまして、今菊川市にお墓も家もあります。でも帰るかどうか悩んでいる状況です。ぜひこのような人を菊川市に住まなければならないという風にしていただきたいなと思ってこの資料を読みますと、実は私だけではなく結局大学進学で県外に出ていったまま、お墓があるのに帰ってこないのです。その人たちが帰ってこようと思ったときに何が足りないかという、足です。私は75歳になったら車の運転を辞めようかと思っているので、ここで車の運転を辞めたらお

そらく生きていけないのではないかとこの悩みを持っています。資料を見ると100%達成となっているのでそれは、私の困ったなという感覚と違うと思っています。それから、病院、コミュニティがあります。高校生の将来菊川市に住みたい人はもちろん、菊川市に戻ってきて暮らしたい人に対しても、こんな風に暮らせませよというビジョンを示していけば良いのではと思います。それから、メディアの話をさせていただきますと、各市の中で熱心なところと熱心ではないところがありまして、私の所に来る熱心な所は藤枝市です。藤枝市は各課でどうメディアに出たか市長に諮られるという話を聞いたことがあります。メディアに出すことを一つの目標にしているそうです。何かあったときにすぐメールや電話で連絡をくれる何回もアプローチしてきます。そうすると、おのずからやります。それから静岡市で言いますと中山間地区です、「おくしず」という言葉を広めているところで、ここは、熱心にいつもアプローチしてくれて、毎年春に、長く付き合っている担当と一緒に今年1年SBSは、これと、これと、これを取材しましょうという年間計画を作ります。これは別にお金がかかるわけでもないで、その気になってくれれば、メディアは真剣に来られるとちゃんとお答えします。ただその際に、先程驚異的な数字とおっしゃった菊川市の人口が増えているとか子供が過ごしやすいところだとか知っている人は菊川市でもそう多くないし、市外の人ほとんど知らないと思います。ですから、菊川市の何を分かってほしいのか、しっかり決めてそれに沿った切り口、アングルをしっかりと決めてメディアにアプローチすれば結果は全然違ってくると思います。

会 長 : ありがとうございます。事務局から何かございますか。

事務局 : 住みよさを売りにしてはいますが、一方、子育てにつきましては、住宅の補助金や出生の補助金をやっておりますが、少し高齢者の方から、制度的に不満の声があるようにアンケートの回答からも感じております。市内交通の部分で踏まえて長期的な目で考えなければならない部分もあるかと思っております。メディアを使ってという部分については、広報でも各課のものをなるべく出して投げ込む作業を行っておりますが、委員の所に直接お願いすることはしていないかと思っておりますので、今後またそういったところも活用させていただいて、それも年度の早く年間で分かっているものは投げ込みさせていただいて、ぜひ協力をしていただければと思っています。

委 員 : 投げ込みは効きません。1日に放送局に来る投げ込みは上から見ていって、これをやらないと、落ちてしまうというものだけ扱います。ですから、投げ込んだだけでは、全くとは言いませんが、単なる参考にしかなりません。ここから先やりますからお願いしますというセールスが絶対に必要です。

事務局 : 最初に市長からアンケートの話で、住みやすいと思う市民が86%を超えたということで、非常に高い、なぜ高いか考えたのですが、東洋経済新報社の住みよさランキングでも、菊川市が県内、御殿場市に次いで2位というのが3年続きまして市長がずっと

市内でこれを宣伝していました。その結果ではと思っております。やはり市内の市民に対して、いろんなことをアピールすることは重要だと感じております。

会 長 : ありがとうございます。メディア戦略は専門の委員もいらっしゃるのでぜひご活用していただけてください。

委 員 : 菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標2の将来菊川市に住みたいと思う高校生の割合のところですが、地元企業や団体、行政等が参加する説明会を実施とあるのですが、静岡銀行も中学生未来塾ということで、何年か参加させていただき、プレゼンテーションをやらせていただいております。それがお役に立ってこういった形で割合が変わっているのであれば、嬉しいなと思います。引き続きこういった形でぜひ参加できる環境を作り続けていってほしいと思います。メディアのところではおりましたが、きくのんというマスコットキャラクターがあるのですが、静銀のパートさんに人気がありまして、イベントは参加しているけれども、ゆるキャラグランプリに参加していないことが載っておりまして、ぜひこういったものに参加していけば菊川市のアピールにつながっていくのではと思っておりました。また、アンケート調査で、年代別というのもあった方が、若い方、お年寄りがどのように考えているのかわかるので、年代別で出しても良いのではと思っておりました。

会 長 : ありがとうございます。他にご意見をお願いします。

委 員 : 私が思ったのは、お茶の複合経営に関してですが、40ページ、農業所得の向上につながる複合経営の実施とあるのですが、実際に菊川でどういった経営体が行い、その収益配分、お茶が何パーセント、他のものが何パーセントでどうやって成功しているのか知りたいのが一つです。このままお茶の状況が良くならなければ、ぼっさり切っても良いのではというのが正直な気持ちです。やはり、達成率が低いですし、結果が出てこない。そのためにはやはり人材育成と共同工場の解体だとか茶畑という財産を上手く活用していける経営体を上手く作っていかないとこのままじり貧に至っていく可能性を感じます。

会 長 : かなり茶業、農業も厳しいのですが、一方で民間企業的な経営システムで成功しつつあるところも出ているようです。

委 員 : 私は、応急手当指導員という資格を持っておりまして、市民の皆さんに普通救命講習の心肺蘇生法といった応急手当の指導をさせていただくことが多いのですが、そういったときによく質問があがるのが、菊川市内でAEDってどこに置いてあるのですか、という質問がよくあります。市の施設には必ず置いてありますし、駅ですとか、パチンコ屋にもありますよというお話をしているのですが、市の施設、コミュニティセンターに置いてあっても夜間は施錠されていて使えないということがよく言われます。確か

に使いたくてもそこまで取りにいけない、ガラスを割って入るとそれもまたいけないので、どこにあるのが一番良いという話になるときにコンビニに置いてあると 24 時間やっていて良いということでした。消防本部の救命士の方はいろんな情報を持っていらっしゃるって三島市は行政とコンビニが提携をして置くようにしていると聞きました。ぜひ菊川市でもそのようになれば良いなと思って、それこそあちこちで地震が起きていて大規模災害があった場合に救急車がなかなか来れません、自助、共助、地域で助け合いましょうという話の中で、そういったことが大事かなと思います。それと、子どもを育てやすいというまちのことですが、先日家に市から封書が届きまして、今年の 10 月から 18 歳まで医療費の助成が出るということで大変ありがたいなと思ったのですが、4 年後には 18 歳が成人になるということで成人まで助成があるのかなと嬉しく思いました。御前崎市では、少し前から 18 歳まであるようなお話も聞いていましたけど、そういったところで助かるお母さんたちがいるのではないかなと思いました。

会 長 : ありがとうございます。突然ですけど、この間の地震でブロック塀がだいぶ取り上げられましたが、菊川の場合は、どのような状況が分かりますか。

事務局 : 今、学校に限らず、全ての公共施設で同時に発表できるようにと全庁的に取り組んでおります。ただ、先行して幼、小、中学校は調査をして公表しております。幼稚園はございません。小学校は 4 校、中学校は 1 校です。今の基準法に合わないところがございます。それについては早急に撤去ないし補修するよう指示しております。

会 長 : ありがとうございます。他に委員から意見などありましたらお願いします。

委 員 : 皆さんの発言と重複するものもありますが、目標値、達成値については各施策の評価になるとは思いますが、達成度が特にアンケートの数値を用いている個所で、アンケートというものは曲者でして、非常に定性的ですから、中身の分析をしないと正確な評価ができないと思います。少し厳しい言い方をしますと、住みやすさが高いことについて市長が宣伝されたとお話しがありましたが、それってプロパガンダに先導されたのではないですかと、意地悪な言い方をするとそういう言い方もできないことはないですよ。気を付けないといけないと思います。次に農業については、菊川市は、広い面積を使ってやる土地利用型農業を長いことやってきたのですが、お茶については、危機的状況になってきています。10 年間このようなことをやっているうちに現場がめちゃくちゃになっているのではと私は思います。相当思い切ったことをやらないとお茶は壊滅するのではと思います。ちょっと高台に入って、ぐるりと 360 度回ると放棄園ばかりです。菊川市のどこへ行ってもそうです。これは少し問題だと思います。水田についても、菊川に限らず 30、50、100 ヘクタールの経営が稲作は無理なので、今のやり方のこの程度の数字では、本当に追いつかない。これも同じようなことで畑作転換や施設園芸などいろいろな方法があるのですが、それはそれで非常に重要なので進めていただきたいのですが、その他の水田をどうするかということで、どンドンや

らないと、全部太陽光になればエネルギーが確保できるということもあります。それから、危機管理についても、気が付いたのですが、自主防災会については、地域防災会、防災連絡会を作ってくださいということで、各自治会作ったと思うのですが、この文章を見るととりあえず組織を熟成しましょうということが書いてあるのですが、防災会と防災計画を併せて作らないとその防災会は何をやるのだとことになるので、もう少し危機管理課の方の施策評価の中でこういうことが書かれていますが、具体的にこれから地域防災組織をどうやって指導していくか再考していただければと感じました。

会 長 : ありがとうございます。

委 員 : 18 ページの教育に係る、「子どもがいきいき育つまちづくり」に絡めてお話しをさせていただきたいです。2015年に経済財政運営の改訂の基本方針が閣議決定され、それを受けて全自治体が学校の小規模化についての対策の検討に着手することという目標が2020年までに検討に入りなさいということが示されています。ここから私の独自の調査のため若干古い人口推計に基づいていますので、新しいものと差が出てくるかもしれません。菊川市には小学校が9校、中学校が3校あります。文科省が出している適正化で言いますと小中問わず12学級以上18学級です。中学校で言うと3学級から6学級。小学校で言えば2学級から6学級。これが適正規模といます。2030年までにこの適正を維持できる中学校が3校中2校です。1校は適正から外れます。9校ある小学校では、4校です。残り5校はこの適正に外れていきます。現時点で、既に単学級、1学年に1学級が15学年あります。その内2つの小学校は全て単学級です。これはちょっと恐ろしいですが、20数名の子どもが小学校1年から6年まで同じメンバーで過ごすわけで、つまり、完全にキャラ化が固定化されるわけです。現実として2つの学校は1年から6年まで単学級です。そのように考えますとやはり確かに統廃合の問題は地域コミュニティに与える影響は非常に大きいので、しかも、私が今、校名は言いませんが、デッドゾーンに入っている2校を考えると、それらの地域は地域の協力が非常に高いです。そうすると統廃合には当然反対が付きまとうわけで、しかし、これは避けて通れないことでやはり2030年というと12年後です。そう考える今のうちから統廃合という言葉を出さないまでも未来の学校の研究会といったものを立ち上げて少しずつ市民に統廃合の意識を持っていってもらいたいと思います。それが避けて通れない「子どもがいきいき育つまち」の一つの前提だと思います。そういう意味で早急にそういった会を立ち上げて未来の学校がどうあるべきか、やはり財政面だけでなく菊川市ならではの新しい未来志向の教育、魅力ある菊川市の学校にするための統廃合だという前提にたつたうえでの勉強会を開いたほうが良いのではと思います。

会 長 : ありがとうございます。今後かなり厳しい状況が予想されると思いますが、事実は厳然と進むということでして、そうした将来に備えていくといった意見だったと思

ます。私のほうからはやはり、人と産業面が非常に心配です。菊川市は他の自治体と比べると、優等生の方です。人口自体が増えている4つの自治体の一つということで、一見楽観的に見えるところがあります。産業面も今のところ良く見えるのですが、一番恐いのは、ここに本社がある企業という形ではないのでいつ移ってしまうか分からない、それから若い人が出ていく傾向は変わっておりませんので、先程、委員からありましたように菊川出身の人が戻るということが、中高年もそうですが、若い人も戻ってくれるというのが相当厳しくなっていますので、中学生、高校生向けのふるさと教育がすごく大事になるのではと思います。そういう意味で他の自治体に比べるとまだ恵まれていると思いますが、今日の皆さまのご発言がありますように非常に菊川市も厳しい将来ですから、もう一度行政、住民、企業が一体となって将来展望というものを、今やるべきことを確実にやらないと厳しい状況になってしまうとっております。それでは最後に副会長からお願いします。

副会長 : 中身で一つだけ全体を通して感じたことを申し上げます。最初からずっと読んでいくなかで、途中で嫌気がさしました。なぜかという先ほど委員が同じことを言っていただけでしたが、いわゆる達成度を表す式が最初分からなくて、例えば90%、80%ですよと言うのですが、基準になるところがあったわけで、相手を惑わすような内容になってしまったというのが一つ、それから、総括と評価を読んでいく中で、もう少しポイントを絞り込んで簡潔に書いていただきたい。枠を埋める言い訳めいたものが結構あります。しっかりとなぜそうなったのか正面から捉えて簡単に1行で表示していただいたほうが、読んでいて中身が分かります。例えば、45ページにある進出企業、29年度は4社誘致したのですが、4社を誘致したことによって従業員がどのくらい就労しているのか、その企業の年間出荷額がどのくらいかが見えるようにやっていく必要があるのではと思います。ただトータルで何社誘致したからそれでOKですと、この内容ですとそういうふうにとられてしまうのです。もう少し踏み込んだ工夫した将来を見据えるような内容を場合によっては入れ込む必要があることを特に感じましたので申し上げます。

会 長 : ありがとうございます。最後皆様から一言ご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。これにて議事を終了したいと思います。それでは事務局にお返しいたします。

事務局 : 皆様大変熱心なご審議をいただきありがとうございました。今回初めて出させていただきました総合計画の進捗状況につきましては、先程申し上げたとおり、達成状況や見せ方の工夫、総括の書き方といったことについては、またこちらの方から検討して内容を分かりやすく、皆様からご指摘いただいたものはクリアできる形で次回は表示していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。では、長時間に渡りご協力いただきありがとうございました。最後に副会長より閉会のご挨拶をお願いいたします。

7 閉会

副会長 : 暑い中、長時間に渡りご審議いただきましてありがとうございました。総合計画にしても総合戦略にしても相当たくさんの目標があります。人間とは面白いもので、目標が無ければ前に進んで行かないです。私の45年間、目標、ノルマにいつも悩まされながら進んできましたが、仕事が終わってちょうど7年になります。でも、仕事以外の目標と言いますかノルマがずっと付いて回って、何とかやっていますが、やはり、この行政の運営もそうですが、市民ひとりひとりが自分で何かしらの目標をどこかで抱えていかないと成長はないのかなと、特に私今回の報告書を見る中で、やはりこういうところをやればこういうところに効果が出ていくのだろうなというものを少し頭の中で発展しながら読ませてもらいました。そういう枝葉の部分が良く発展していくような総合計画になることを期待して、第1回の審議会を終了したいと思います。本日はお疲れ様でした。